

令和4年度蒲刈中学校区研究推進計画

校番(23)(蒲刈中)学校

校長名 柿林 浩彦

- 1 学校教育目標
未来を拓く児童生徒の育成
- 2 目指す児童生徒像
 - ・学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせる児童生徒
 - ・未知の状況にも対応できる児童生徒
 - ・学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒
 - ・郷土を愛し、協働して貢献できる児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考・判断・表現	自己の生き方 を考える力	協働的に関わる 力
後期	○社会人として必要なことはたくさんあることに気づき、その中で自分なりに大切にしていこうとすることをもつことができる（多様性）。 ○課題解決のために、様々な立場の人たちが連携協力していることを知り、自らも共に地域貢献していくことの大切さを理解する（連携性）。 ○自己の将来設計を達成するために、志をもち自らその実現のために行動していくことの大切さを理解することができる（責任性）。	○課題解決の計画に沿って、情報収集の方法を適切に選択でき、探究の過程での学習内容を批判的に整理・分析し、自分たちは何ができるのかを効果的にまとめ・表現・発信することができる。	○他者の生き方にふれながら、学びを自己の成長へと結び付け、よりよく生きようと考えている。	○学びの経験を社会の形成者としての自觉につなげ、積極的に社会参画しようとする。
中期	○探究課題に関わる種々な環境について多面的に見たり考えたりすることができる（多様性）。 ○状況に応じて、課題解決のために互いに様々な協力がなされていることの大切さを理解できる。（連携性）。 ○一人一人に責任と役割があることに気づき、自ら行動することの大切さを理解することができる（責任性）。	○課題解決のための情報について、収集方法及び収集した情報内容について、多面的・多角的な整理・分析ができ、目的意識、相手意識をもちながら、まとめ・表現することができる。	○自分にとって、学ぶことの意味や価値を考えることができ、自己の成長のための自己課題に積極的に取り組んでいる。	○互いのよさを生かしながら、学びの経験を実社会や実生活への興味関心につなげ、進んで地域活動に参加しようとする。
前期Ⅱ	○探究課題に関わる種々な環境には、さまざまな特徴があることに気付く（多様性）。 ○課題に対して人々の協力しながら解決に努めていることに気付く（連携性）。 ○自分の生活は、家族などの人々に支えられていることに気付くとともに、自らの夢をもつことができる（責任性）。	○調べたい課題を設定し、必要な情報を比較したり、関係付けたりして整理・分析し、相手を意識して表現することができる。	○自分の成長を自信につなげ、よりすてきな自分になるための自己課題に気づき取り組んでいる。	○学びの中で、互いのよさや違いに気づき、課題をよりよく解決するために協力しようとする。
前期Ⅰ	○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、社会生活上必要な習慣や技能を身に付けている。 ※知識及び技能の基礎	○体験・観察等を通し、疑問等の気づきをもとに分かったこと及び自分の思いや考えを表現することができる。	○自分ができるようになったことに気づき、なりたいたい自分を思い描いている。	○学びの中で、友達を助けたりほめたりしようとする。

4 研究主題等

(1) 研究主題

学びを活かし課題解決を図る児童生徒の育成
～授業改善と地域の学びを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区は、蒲刈島と下蒲刈島の2島の中学校区が統合して、3年目を迎える。自然が豊かで人の営みが穏やかであり、地域の方は教育活動に対して協力的である。このような環境の中、児童生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。

昨年度の全国学力・学習状況調査から、児童生徒の学力等の現状や課題は次のとおりである。中学3年生では、国語科において全国平均を8.4ポイント、数学科において9.8ポイント上回った。小学6年生においては、国語科は0.7ポイント上回ったが、算数科で12.2ポイント下回った。

昨年度の児童生徒アンケートの「授業で発表するときは、自分の考えに理由を付けるなど、相手に分かりやすく伝えようとしていますか。」では、目標値が小学校、中学校とともに90%であったが、結果は小学校が85.0%、中学校が74.1%であった。達成度は小学校が94.4%、中学校が67.7%となり、多くの人がいる場や初めての場では、自分から積極的に思いや考えを伝える等、自己表現を苦手とする児童生徒が多い。これは、これまで幼少期から少人数での固定化された人間関係の中で生活や学習をしてきているためと考えられる。

また、児童生徒アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか。」では、目標値が小学校、中学校とともに90%であったが、結果は小学校が83.0%、中学校が92.6%であった。達成度は小学校が92.2%、中学校が102.9%となり、自分の力を信じて前向きに挑戦しようとする児童生徒は多くはなく、固定化された人間関係において悩みを抱えたり、行事や学習を達成しても自己肯定感の向上が見られなかったりすることにつながっていると考えられる。

そこで、前述の課題を克服し、児童生徒が社会や世界に向き合い関わりながら、自らの人生を切り拓いていくことができるよう、本年度も9年間を見通した教育目標を「未来を拓く児童生徒の育成」とした。そして、育成する資質・能力に基づき、目指す児童生徒像などを明確にし、蒲刈中学校区の特徴である「ふるさと学習」を推進し、資質・能力の育成を目指す。また、「学びを活かし課題解決を図る児童生徒の育成～授業改善と地域の学びを通して～」を研究主題に設定し、『伸ばす学力部会』『育む心部会』の2つの部会で研究主題に迫るとともに、本中学校区の課題の克服を図る。

具体的には、『伸ばす学力部会』において、小中一貫で取り組んできた「教えて考えさせる授業」をベースに、教科等の本質を踏まえた授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を高める取組を推進する。

単元等を貫く本質的な問いを設定したり、子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を行ったりすることで、授業改善を更に推進し、学力の向上を図る。

また、授業において自分の思いや考えを相手にしっかりと伝える場を重ねながら、朝会や集会活動、生徒会・児童会活動、特別活動等においても自分の思い等を伝える場を仕組む。そのことによって、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えること（自己表現）ができる力を身に付けさせる。

『育む心部会』においては、総合的な学習の時間のカリキュラムである「ふるさと学習」を更に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。「ふるさと学習」によって、住んでいる地域の良さを再発見し、児童生徒が地域のために自分にできることを考え行動することで、自己肯定感の向上を図る。遠足、運動会等の小中合同行事では、児童生徒が「お互いを認められる」「役割を果たす」「達成感を体験する」ことができる場になるようにしたり、生徒会や児童会の取組において異校種・異学年交流を進め相互評価をしたりすることによって、自己肯定感を向上させる。

以上のことから、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

- ①「教えて考えさせる授業」をベースに、教科等の本質を踏まえた授業によって、「主体的・対話的で深い学び」を高められるであろう。【授業改善】
- ②自分の思いや考えを自己表現する場を様々な場面で設けることによって、相手に分かりやすく表現する力が身に付くであろう。【自己表現】
- ③「ふるさと学習」などによって、地域のために自分にできることを考え行動することによって、自己肯定感を高められるであろう。【自己肯定感】

5 研究内容

①『伸ばす学力部会』

- ア 授業改善による学力向上（「教えて考えさせる授業」の充実）【授業改善】
- イ 自分の思いや考えを自己表現することができる授業等【自己表現】

②『育む心部会』

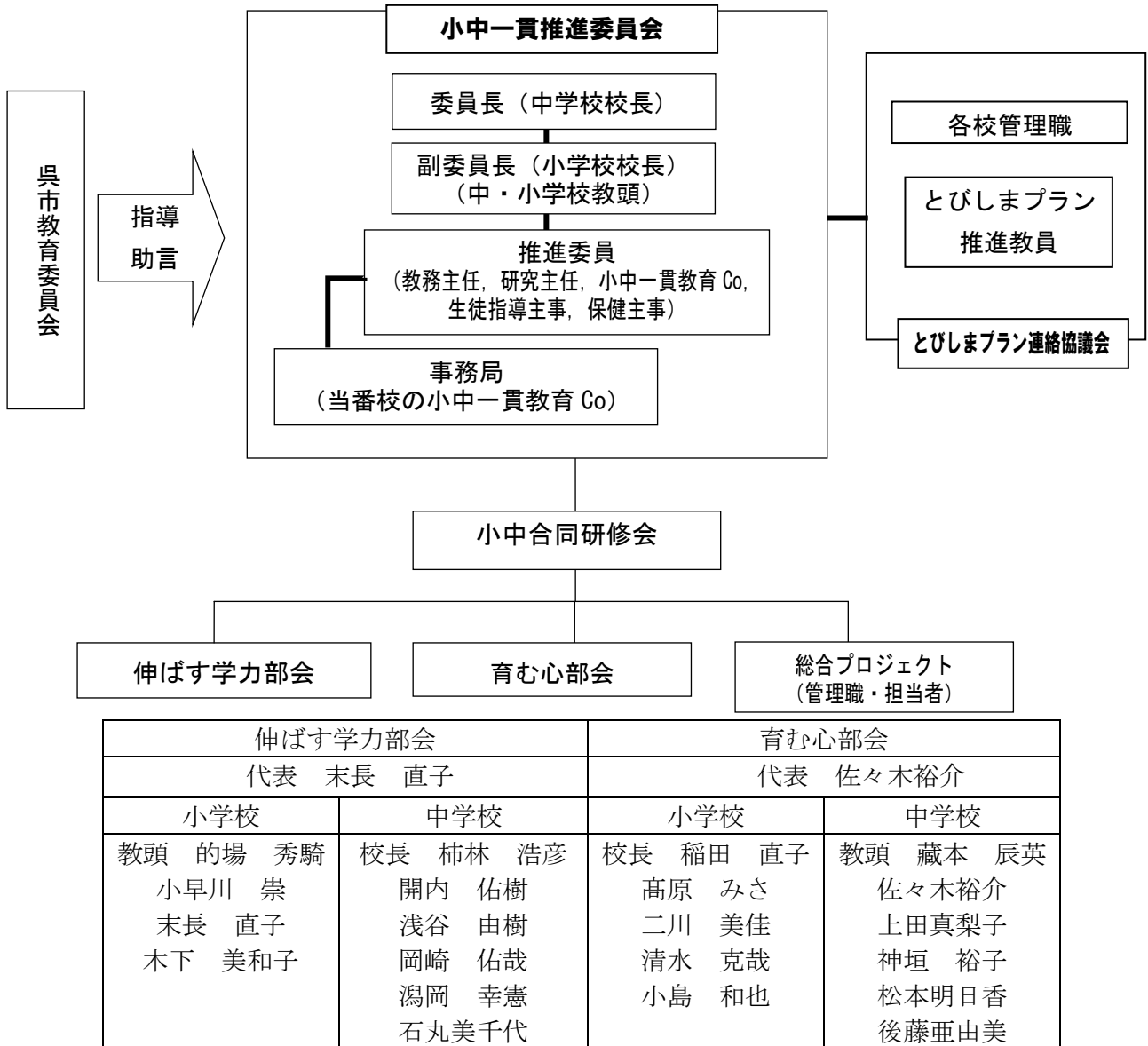
- ア 「ふるさと学習」の充実【授業改善】 【自己表現】 【自己肯定感】
- イ 自己肯定感を向上させる異校種・異学年交流の充実【自己肯定感】

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 「主体的・対話的で深い学び」を高めることができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価値の平均（4段階評価） 一人一回の研究授業	—	3.2以上
	小6，中3対象 全国学力・学習状況調査（国語，算数，数学，理科）	全国平均との差	小国語 +0.7 小算数-12.2 中国語 +8.4 中数学 +9.8	全国平均との差 小国語 6.0 中国語 5.0 小算数 5.0 中数学 5.0 小理科 5.0 中理科 5.0
	小全員，中1・2対象 標準学力調査	全国平均より高い人数の割合	小 53.0% (41/78) 中 54.0% (49/90)	全国平均より高い人数の割合が60%以上
② 自分の思いや考えを，相手に分かりやすく表現することができたか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価（4段階評価）	小 85.0% 中 74.1%	80%
	教師アンケート	教員の肯定的評価（4段階評価）	—	80%

③ 地域のために自分にできることを考え行動し、自己肯定感を高めることができたか。	児童生徒アンケート（地域貢献）	児童生徒の肯定的評価（4段階評価）	小 83.0% 中 85.2%	90%
	児童生徒アンケート（自己肯定感）	児童生徒の肯定的評価（4段階票）	小 83.0% 中 92.6%	90%

7 推進体制等
(1) 推進組織



- (2) 一部教科担任制実施計画
ア 乗り入れ授業等（中→小）
・理科（6年）
・保健体育（5，6年）

イ 小学校教科担任制等
なし

8 推進計画

月	日	曜	内容
4	4	月	推進委員会①（小中一貫教育推進計画，合同遠足計画，合同運動会計画）
4	8	金	合同研修①（小中一貫教育推進計画，合同日曜参観日，合同遠足）
4	24	日	合同日曜参観日
4	28	木	合同遠足（下蒲刈・大津泊庭園）
5	9	月	推進委員会②（合同遠足まとめ，合同日曜参観日まとめ，合同避難訓練，合同運動会）
5	10	火	合同研修②（合同運動会及び予行に向けて）
5	18	水	合同運動会予行
5	22	日	合同運動会
5	27	金	合同避難訓練（土砂）
5	31	火	推進委員会③（合同運動会まとめ，合同日曜参観日・授業研究）
6	12	日	合同日曜参観日
6	14	火	合同研修（中学校研究授業指導案検討） 講師 東京大学 准教授 植阪 友理
6	22	水	合同研修（中学校研究授業） 講師 東京大学 准教授 植阪 友理
7	6	水	推進委員会④（合同日曜参観日まとめ，各部会の活動状況）
7	21	木	合同研修③（各部会の学期まとめ）
8	31	水	推進委員会⑤（発表会）
9	30	金	推進委員会⑥（発表会，合同避難訓練）
10	5	水	合同研修（小学校研究授業） 講師 東京大学 准教授 植阪 友理
10	21	金	合同研修④（前日合同準備）
10	23	日	蒲刈中学校区合同学習発表会
10	28	金	小中一貫教育だより①（担当：中学校）
11	1	火	推進委員会⑦（発表会まとめ）
11	4	金	合同避難訓練（地震津波）
12	2	金	推進委員会⑧（各部会の学期まとめ，合同避難訓練）
12	26	月	合同研修⑤（各部会の学期まとめ，合同避難訓練）
1	27	金	合同避難訓練（火災）
2	3	金	推進委員会⑩（各部会の年間まとめ，来年度の小中一貫教育推進計画）
2	17	金	合同研修⑥（各部会の年間まとめ）
2	28	火	小中一貫教育だより②（担当：小学校）
3	3	金	推進委員会⑪（来年度に向けて）

9 その他

- ・小中一貫教育だより（年2回発行予定）

※ 研究構想図，カリキュラムマップを添付する。